

# 平成29年度おかやま協働のまちづくり賞応募用紙

平成29年10月30日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 NPO法人

岡山聴覚障害者支援センター

氏名 理事長 羽原 裕子

平成29年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

取組の名称	年老いても楽しく手話で語り、元気で暮らせる拠点づくり	
取組の概要	<p>高齢聴覚障害者(ろう高齢者)は、高齢と聴覚障害の二重のハンディがある。聞こえないことから生活の情報が入りにくく地域の人とのコミュニケーションも不足し孤立しやすい。地域の社会資源や制度上のサービスを利用したくても、手話が使えないため利用を控える現状もある。</p> <p>そこで手話で思いや気持ちを伝え集える場「ももハウス」を運営している。定期的な活動等を通して様々な情報や知識が得られ楽しみの場となっている。また要介護のろう高齢者から老い方を学ぶ機会にもなっている。さらに定期的に関わることで、個々の要望や生活上の困難さ、福祉的課題が発見でき関係者や関係機関に繋いでいる。ろう高齢者が孤立することなく安心して暮らせる地域社会を目指している。</p>	
協働団体	1. 岡山市障害福祉課 2. 岡山市ふれあい介護予防センター 3. 岡山市南区南輝学区あけぼの町内会 4. 岡山県介護福祉士会 5. 岡山県歯科衛生士会	
取組の実施期間	始期：平成24年4月～現在	<input type="checkbox"/> 平成 年 月 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続予定 <input type="checkbox"/> 平成 年 月 頃 終了 予定 ※該当するものに☑し時期の予定し必要事項記入してください。

## 〔様式1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	年老いても楽しく手話で語り、元気で暮らせる拠点づくり
平成29年度募集テーマ	楽しんで年を重ねられる社会のために
テーマとの関連	<p>一昔前は手話を使うことは偏見と差別の対象となっていたが、現在では、手話は言語として認められるようになってきた。しかし、地域には手話を理解する人はまだ少なく、聴覚障害者が福祉サービスや医療を利用しようとしても病院・事業所等の窓口で、手話でやり取りができる人はほとんどいない。デイサービスに通ってもかえって孤立感を深める状況にあった。「ももハウス」は、手話で語り合える居場所であり、当事者同士が支援し合う場所である。「みんなと手話でおしゃべりするのが楽しい。」「ホカホカ笑顔で過ごせる楽しみがあるからこそ、長生きする気持ちが深まった。」「いつものデイはおえん、ひとりぼっちじゃ。ももハウスがええ。」といった声が寄せられている。お互いに支援しあうことで、障害と高齢という二重のハンディをもって年を重ねていく姿のモデルを見ることができ、明日への不安を軽減できる。</p> <p>前期高齢者が後期高齢者を支援し合うなど、お互いの関係の中で刺激され元気に過ごすことができる。また個々の要望や福祉的課題を発見し関係者や関係機関に繋げている。地域拠点をつくることで、地域住民との交流も生まれ、聴覚障害者や手話への理解を深めている。高齢聴覚障害者が、社会から孤立することなく、年老いても安心して暮らせる地域社会を築くことを目指している。</p>
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手話を言語に持つ高齢聴覚障害者は、生活の情報が入りにくく住民とのコミュニケーションがとりにくい現状がある。手話で語れる場「ももハウス」は、高齢聴覚障害者にとって様々な情報や知識を得られるとともに、個々の悩みや訴えを手話で語れる場でもある。また健康上の問題や福祉的な課題なども発見しやすく、関係者や関係機関に早期につなげ問題解決を目指したい。</li> <li>2. 「ももハウス」のある岡山市南区南輝学区あけぼの町内会の住民の方々に、障害の理解や手話について啓発するとともに、気軽に出入りできる良き交流の場となっている。また利用者が地域の行事やイベントに参加することで、聴覚障害者や手話への理解が深まっている。さらに継続したい。</li> <li>3. 元気な高齢者と要介護の高齢聴覚障害者が、共に過ごすことができる事業の体系づくりを構築。</li> <li>4. 高齢聴覚障害者が安心して利用するために、手話でコミュニケーションできる環境が必要。障害者サービスや介護保険サービスの事業所に手話のできる人材が配置されてほしい。そのための案として、福祉職員に向けた手話講座の開催をしてほしい。</li> <li>5. 利用者で、自宅での生活が困難になり施設入所に至るケースがみられる。しかし、施設に入所しても、施設職員は手話でコミュニケーションがとれないため、施設の中で孤立してしまう現状がある。⇒将来的には、高齢聴覚障害者同士が利用できる入居型の施設の設置が必要と考えている。</li> </ol>
取組の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数等 対象者：手話を日常のコミュニケーション手段としている高齢聴覚障害者（ろう高齢者）。 利用会員数：126名。主に岡山市内在住。倉敷市、瀬戸内市、備前市、総社市からの参加者もある。</li> <li>2 取組の担い手：取組への参加団体、参加人数等 当NPO法人の会員である聴覚障害者と健聴者が「ももハウス」の運営や支援スタッフとして関わる。 週2回の集い「ももハウス」への参加人数（スタッフを含む） 第1火曜日 60名程。 他の火・金曜日 15～20名程。</li> <li>3 活動内容、実施方法などを具体的な活動ごとに箇条書きでお書きください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 手話でコミュニケーションできる場（拠点）「ももハウス」の開催 毎週 火・金曜日 10:00～15:00 岡山市南区あけぼの町 古民家を借用して運営。 ただし、第1火曜日のみ、きらめきプラザや公民館等の会場を利用。 ・交通手段：送迎あり。 ・活動内容：学習、生活の情報提供、体操、レク、脳トレ、創作活動、手芸、外出・買い物支援など。 その他） ・岡山市ふれあいセンター「介護予防教室」への参加 「あつ晴れ！桃太郎体操」を実施（週2回） ・手話教室・ヨーガ教室の開催（地域住民に呼びかけている） ・利用者が入居している高齢者施設に出向いての「出前手話教室」 ・地域（あけぼの町内会）の行事や催しに参加、交流</li> <li>2) 機関紙の発行 2ヶ月に1回発行「ももハウス便り」（約200部）</li> <li>3) 生活・相談支援 必要に応じて情報提供、関係者・機関につなぐ。また、関係者と連携して支援をする</li> <li>4) スタッフの研鑽・資質の向上 研修を年2回実施</li> </ol> </li> <li>4 取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。 <a href="http://www.geocities.jp/momohausu_okayama/">http://www.geocities.jp/momohausu_okayama/</a></li> </ol>

	団体名（代表者）	この取組で果たしている役割	団体自身にとってこの取組をする理由やメリット
協働団体とその役割等	岡山市障害福祉課 課長 近藤 雅明	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡山市の利用できる補助金の紹介申請に関する支援</li> <li>高齢聴覚障害者が置かれている現状の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集いの運営、活動の継続ができています。</li> <li>高齢聴覚障害者にとって、手話でコミュニケーションできる大切な場所と理解している。</li> </ul>
	公益財団法人 岡山ふれあい 介護予防センター 課長 青山 賢吾	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防教室（市内2カ所に手話通訳の配置、うち1ヶ所は公民館が費用負担）</li> <li>教室のなかで手話を学ぶ時間を設ける。</li> <li>介護予防体操「あっ晴れ！」桃太郎体操」の出張講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防教室を広く知ってもらおう。</li> <li>手話通訳を通して介護予防教室の情報保障を行う。</li> <li>手話を一緒に学ぶことで手話を身近なものに感じてもらう。また、聴覚障害者への理解が広がる。</li> <li>「あっ晴れ！桃太郎体操」を楽しく参加し、みなさん継続できている。</li> </ul>
	南区あけぼの町 会長 妹尾 文二	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内の各種の行事や催しの紹介</li> <li>町内住民の行事への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事や催しを通して交流を図ることができ、手話や聴覚障害者への関心を持つことができている。</li> <li>感想）みなさんいつも楽しそうに過ごしている。</li> </ul>
	岡山県介護福祉士会 会長 安達 悦子	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ研修会の講師 年2回</li> <li>介護技術や高齢者支援などについて講話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害者への理解が図られている。</li> <li>介護福祉士の事業の広がりや啓発になっている。</li> </ul>
	岡山県歯科衛生士会 会長 杉山 珠美	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回、口腔ケアの研修会</li> <li>高齢聴覚障害者へ口腔ケアの必要性を啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害者への理解が図られている。</li> <li>事業の広がりや啓発になっている。</li> </ul>
	取組の工夫 取組の特徴	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方を交えて活動や交流をする。</li> <li>交流を通して聴覚障害者や手話の理解を図る。</li> </ul> <p>◎協働する各団体の役割分担や、団体間の目的の共有の仕方、対等な協働関係を築いていくための工夫など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当者とのコミュニケーションを図り理解を得る。</li> <li>協働関係を気づくために顔の見える関係づくり。</li> <li>担当の方に実際の活動を見学、参加していただき理解を得る。</li> </ul> <p>◎取組の特徴やアピールポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手話と日本語というコミュニケーション手段の違いはあるが、「伝えたい」「わかりたい」気持ちを大切にする。</li> <li>介護予防体操の継続で体の元気と手話でコミュニケーションし心の元気で心身ともに元気に過ごせる。</li> </ul>	
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の公民館活動や福祉サービス、介護保険サービスなど手話で自由に話せる場がないが、「ももハウス」を通して、自分の言葉である手話で思いや気持ちを自由に話せる場ができ大切な拠点となっている。</li> <li>町内の方々と、行事や日頃の交流を通して、ももハウスの存在や聴覚障害や手話への理解が図られてきている。</li> <li>市内2カ所の介護予防教室に手話通訳をつけて頂いたことで高齢聴覚障害者が参加しやすくなり、継続して参加ができています。また手話を学ぶ時間を設けて頂き、地域の人たちが手話や聴覚障害についての理解が少しずつ広がっている。</li> </ul>		
今後の活動展開 など展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢聴覚障害者の集い「ももハウス」の継続運営。</li> <li>今後、利用者の高齢化、重度化に対応できる支援スタッフの養成と確保。</li> <li>今後利用したいという65歳未満の聴覚障害者から、運営について理解と賛同を多く得ている。</li> <li>運営資金について十分とは言えず、支援スタッフの奉仕的な面で助けられている。行政からの助成などがあれば、さらに活動が拡大できる。</li> <li>岡山市以外の近隣の市からの希望者も多く、対象者の絞り込みに苦慮している。</li> </ul>		

2017(平成29)年 NO.27

## ももハウス便り

発行年月 2017年10月3日(火)  
発行所 NPO法人岡山聴覚障害者支援センター  
〒702-8057 岡山市南区あけぼの町11-5  
TEL/FAX 086-250-4711  
発行責任者 代表理事 羽原 裕子

「老いても手話で語り、  
元気に暮らしたい！」を支える

## ＝活動紹介＝

今年は、昨年に増して暑い夏でした。  
みなさま、夏の疲れは出ていませんか。  
日の入りも早くなり、一段と秋づいてきました。  
先日、「ももハウス」で敬老の日のお祝い昼食会をしました。赤飯、鯛の塩焼き、煮物などを頂き、みなさんいい顔をして記念写真を撮りました。

最高齢90歳の方が2名。87歳が2名。そして83歳…と続きます。どの方も満面の笑顔で記念写真に収まりました。

戦前の貧困や障害者差別など厳しい時代を生き抜かれた方々です。なかには、兄弟のために、学校教育を受けられなかった未就学の方もおられます。時代は変わり、今ではものが豊かで豊かな時代になり、福祉制度も整い、手話が当たり前使えるようになりました。ろう高齢者にとって今の時代はどう思われているでしょうか？

ディサービスや施設に通っても手話でコミュニケーションができる所は、ほとんどありません

Fさんは、独居となり「ももハウス」以外のディサービスに通うようになりました。しかし、「行ってもつまらん！」「誰とも話ができません！」「ひとりぼっちじゃ～！」と、不満げに言われます。

自分たちの言葉である手話でおしゃべりしたり、ケンカができる環境が保障されると、もっと元気に過ごせるのでは…と思います。

激動の昭和のたいへんな時代に生きてこられたからこそ、高齢期となった今を、こころ豊かに過ごしていただきたいと思うのです。

今後も、会員・関係者のみなさま方のお力添いと智恵を「ももハウス」にいただけたらと思います。ご支援ご協力をよろ

### □ 8/1(火) 学習「成年後見制度」について

場所：きらめきプラザ7階 出席者57名  
講師は、岡山パブリック法律事務所から手話サークル会員でもある工藤真弓氏と手話の学習をされている2名の計3名(社会福祉士)の方に来ていただきました。

工藤氏から成年後見制度の概要について、どのような人が対象になるのか。後見人等が付くと、どのような支援をしてもらえるのか、などをスライドを使い、分かりやすくお話をいただきました。

「今は元気でお金の管理もできるから大丈夫」ではなく、「近い将来、自分が認知症になるかもしれない」～そうなる前に、できることはしておこう。まずは身辺整理からする必要があるのではないかと…。いろいろと考えさせられる有意義な講演でした。

機会があれば繰り返し勉強したいですね。障害者や高齢者支援に関わっている方々が、手話を学んでくださっていることは、とても心強くうれしく思います。行政などの専門機関に手話や手話通訳のできる人が増えていくことを期待しています。

午後からは、ろう高齢者の暮らしを考えると題して、グループに分かれて話し合いをしました。  
(秋山 順子)



※左写真  
(左側)講師の工藤氏



## □ 9/5 (火) 学習「災害に備えて」

場所：きらめきプラザ6階 参加者64名

岡山市危機管理室から2名の方に講師に来ていただきました。岡山の地形の特徴、各種災害（洪水・津波・土砂災害）について、避難方法や日頃の備えなどについて、防災の講話をいただきました。

岡山平野がどのようにしてできたのか。また、東日本大震災での津波の映像や広島市の土砂災害の写真など、見てわかりやすい資料で興味深く学ぶことができました。

聴覚障害によって耳からの情報が入りにくいため、日頃からご近所とのお付き合いや、備えをしっかりとしておくことを改めて感じまし



た。  
午後からは、先月と同様に、ろう高齢者の暮らしを考えると題して、グループに分かれて話し合いをしました。

## = ももハウス(森宅)の様子 =

### ◇ 夏の思い出

#### ① スイカ割り ・ 8月11日(金)

大きなスイカをいただき、急遽スイカ割りをすることになりました。聞こえない上に目隠しをすると「こっち！こっち！」「右、左！」など、声をかけても伝わらないので、肩を叩くなどの合図を決めて行いました。

なかなか難しかったですが、スイカは甘くて美味しかったです。



#### ② あけぼの町「盆踊り」に参加

8月13日(土) 19:00~21:00

ももハウスのあるあけぼの町の盆踊り。地域の方との交流を大切に考えており、今年も4名で参加しました。グランドゴルフ大会で一緒の方が声をかけて下さったり、盆踊りの輪に入って一緒に踊りました。私は、聞こえないけれど、踊りは大好きです。子どもの頃みんなと踊った思い出があり、体が覚えており備中松山踊

り、炭坑節は楽しく踊ることができました。

来年は、もっと大勢で踊りに参加したいですね。

(羽原 裕子)



#### ③ 「ももハウス」夏まつり 8月22日(火)

昨年大好評であった、そうめん流し、ヨーヨー釣り、魚釣りゲーム、かき氷などを準備しました。今年度は、町内にも案内チラシを配布し、ご近所の方が数名、参加していただきました。昼食は、そうめん流しを楽しみました。最初はすくいにくかったそうめんも次第に慣れ、競争のようにすくっていました。

かき氷は、昨年度もお世話になった吉原冷蔵の代表取締役で、操山ライオンズクラブ会長でもある吉原徹様にかき氷の機材、氷みつなど一式準備していただき、さらにかき氷も作っていただきました。冷たく甘いかき氷は大人気でした。

来年もみなさんと元気で夏まつりイベントが楽しめるといいですね。



吉原冷蔵 吉原 徹 氏



#### ④ 赤じそジュース作り

スタッフの方が、自宅で収穫した赤じそをたくさん持ってきていただきました。

みんなで葉を取り、しそジュースを8L作りました。夏の期間は水分補給代わりにみなさんで飲用しました。また、6月には梅ジュースも作りました。



## ⑤ 女子高校生のボランティア来所…夏休み期間

昨年中学生だった大塔真依さん、今年は高校生になり、再びボランティアに来てくれました。高齢者のみなさんにとっては、お孫さんくらいの彼女は、手話も学習中でみんなの人気者。活動に楽しく参加したり、食事の準備や片付けなど積極的に手伝いもしていただきました。

また、冬休みの来所も待っています。

## ◇ 『あっ晴れ！桃太郎体操』 頑張ってます

今年5月から岡山市ふれあい介護予防センター南事務所から『あっ晴れ！桃太郎体操』の指導に5回来ていただきました。DVDをいただき、それを見ながら毎回体操を行っています。

ストレッチ体操、お口の体操、下肢筋力アップ体操の3パターンとなっており、DVDを見ながらできるため、聞こえない方々にとってもわかりやすく好評です！

最初は、DVDで流れるモデルの方の速さに一歩、二歩遅れがちでしたが、今ではみなさん慣れて真剣に取り組んでいます。10回のスクワットも挑戦しています。今後も継続して、いつまでも元気で「ももハウス」に通っていただきたいです。



(吉岡 陽子)

## ◇ ヴィライフ岡南に、出前手話教室

Hさんが入居されている施設で、Hさんを講師に6月から月1回出前手話講座(40分程度)に出かけています。

ももハウスから徒歩で5分くらいの距離にある施設で、管理者の方から快く受け入れてくださり、9月で4回目となりました。サークルで手話指導をされていたHさんもこの時は、しっかりと手話の指導を担っていただいています。スタッフの方や利用者さんと楽しく手話を学



んでいただくとともに手話や聴覚障害への理解もしていただく機会となっています。

## 【 報 告 ・ お 知 ら せ 】

☆ 尾田美代子様より、ももハウスの名にちなんで手作りの桃の花のクロスステッチ刺繍を額に入れて寄贈していただきました。尾田様は以前お借りていたあけぼの町の高田さん宅の隣の方です。玄関に飾らせていただいています。



## ☆ 手作り品出展販売

ももハウスでは、裁縫の技術を活かして、刺し子ふきん、布製バック、コースターなど手作りの小物を作っています。今まではバザー等に出すしかなかったのですが、エムエム薬局取締役の松浦琢磨様のご理解をいただき、9月よりエムエム薬局に手作り品を置かしていただけることになりました。

また、手作り品に付けるタグはスタッフの坂口さんデザインで新しく作りました。

「完売できましたよ。」と連絡をいただくと補充の手作り品を持参していま

す。売れることで、励みになっています。買っただけのものができるよう頑張ります。

(裏辻 節子)



## ☆ 玄関に、新しいプレートが付きました。

ピンク色でかわいいプレートです。これを目印にお越しください！



☆ 前号でお知らせした「岡山市在住の65歳以上の高齢者の実態調査」を10月より行う予定です。聞き取り調査で、いくつかの質問に回答いただく形式です。ご協力をよろしくお願いたします。また、地域や仲間とのつながりが持てない方もおられるかと思えます。そうした方々の掘り起こしや孤立した生活をを防ぐこと、などにもつながれば…と考えています。

## □ ろう高齢者の暮らしを考える

＝出された意見の一部抜粋してみました＝

### 質問 1. 普段の生活の中での楽しみは？

- ・ 韓流ドラマを観る
- ・ 縫い物をする
- ・ 高齢者の集いで普段会わない人と会って、手話で話をする
- ・ ろう協会の手芸クラブに出かける

### 質問 2. 近隣との付き合いの程度は？

- ・ 挨拶しても無視されることがある
- ・ 挨拶程度、用事があるときは筆談です
- ・ 電話をかけたいときをお願いしている
- ・ 町内会の連絡、情報を教えてもらっている
- ・ 野菜をあげたりもらったりしている

### 質問 3. 日常生活において困ったことや悩みについての相談先は？

- ・ 町内の集まり
- ・ 1人暮らしで将来が心配
- ・ 近くの身内がいるのでお互いに助け合っている
- ・ 電話をしてもらいたいときは区役所に行く
- ・ 手話のできる人が少ない
- ・ ろうあ協会の行事に参加したいが、足がない

### 質問 4. 社会活動への参加は？

- ・ 手話サークルに時々参加
- ・ ろうあ協会高齢部の調理講習会
- ・ ももハウスに参加
- ・ 手話のできる人とフラダンスをしている

### 質問 5. どのように通院をしていますか

- ・ ひとりで行き筆談、重い病気の時は手話通訳者で行く
- ・ 説明があるときは手話通訳者で行く
- ・ 家族(娘)、知り合いと行く
- ・ 初めは娘と行き、その後からはひとりで行き口話や筆談で対応
- ・ 夫婦で行く



## 【今後の予定】

- 10月3日(火) バス旅行...和気・日生方面  
19日(木) 岡山市介護予防交流フォーラム参加  
20日(金) 手話教室  
27日(金) 出前手話教室(ヴィライフ岡南)  
28日(土) 岡山ふれあいセンターまつり  
バザー出店  
30日(月) 東区ろう高齢者の集い(午後)  
「小鳥の森」散策  
11月7日(火) 学習) 緊急時の対応について  
12月5日(火) 干支(戌)張り子づくり

## 【ボランティアを募集しています】

ももハウスでの活動支援や昼食作り、送迎などのボランティアを募っています。手話の技術は関係ありません。高齢者のみなさんと楽しくおしゃべりや交流をしたい方は、ぜひご協力をお願いします。



編み物などの手芸が得意な方も大歓迎です！

### …ボランティアのお問い合わせ先…

「ももハウス」 TEL/FAX 086-250-4711

※ ただし、電話の対応は、火・金曜日 の  
9:00~16:00 をお願いいたします。

## 【編集後記】

旭川の土手に、真っ赤な彼岸花(曼珠沙華)が満開です。不思議ですね。毎年毎年お彼岸の頃になるときちんと花を咲かせています。

行き当たりばったりでいい加減な私には考えられないです。計画的に物事を進めようと思っ  
てはいてもつつい先送りして慌てることになっ  
てしまいます。

今年度も下半期に入ります。年度計画を点検し、先送りしないよう頑張ります。(K子)

